

【 国 語 】

今回の調査における課題

国語A問題

- ◆手紙の後付けに必要な、日付、署名、宛名など適切に書くこと。
- ◆目的に応じて、文章の中から必要な情報を見つけて読むこと。
- ◆小学校で習得したい漢字を読んだり・書いたりする力を定着させること。

国語B問題

- ◆目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた適切な言葉遣いで自分の考えを話すこと。
- ◆目的や意図に応じて、必要な内容を整理して書くこと。
- ◆目的や意図に応じて、文章を引用して書くこと。
- ◆物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめること。



改善の方向

- 手紙を実際に書くなど、体験的な授業を行う。
- 相手を意識した話し方や話し手の意図を汲んだ聞き方ができるよう話し合いながら問題を解決する授業づくりを行う。
- 自分の考えを発表する機会を多くもつ。
- 話し手の発言内容をメモなどに書き留め、自分なりの意見を持ち、共通点や相違点を明確にししながら、理由や根拠をノートに表現する指導を充実させる。
- 漢字を正確に読んだり書いたりする指導や習得した漢字を文や文章の中で適切に使う指導に力を入れる。
- 漢字の書き取りや使い方の理解などの基礎的な力を付けるため家庭学習（宿題）の推奨の継続や授業での反復練習の機会を増やす取組を行う。
- 自分の課題について調べ、疑問に思ったことを質問事項として整理したり、意見を述べた文章や活動を報告する文章などを、目的に応じて編集したりする学習を充実させる。
- 調べたものから引用した内容と自分の考えを書いた文章との関係を考えながらノートに記述する学習を充実させる。
- 物語の内容を正確に読み取ったり、読み取った内容を意識しながら音読したりできるよう、音読や読書の機会を確保する。

国語の考察

- ・基礎・基本の学力について課題とされる部分があり、普段の授業での漢字の反復練習の充実や家庭学習や宿題など、学習機会を増やしていくことが望ましいと考えます。
- ・話し合い活動など、自分の考えを発表する場、他者の考えの意図を汲んで聞き、理解し合いながら学習を深めていく機会を増やしていくことが望ましいと考えます。
- ・A・B問題ともに終盤での無回答率が高い傾向が見られることから、問題を解く時間が足りなかったことが推測されます。漢字の書き取り、文章問題等に触れる機会を増やし、問題に慣れていくことも時間内に解くことができるためには必要と考えます。

【 算 数 】

今回の調査における課題

算数A問題

- ◆小数のかけ算やたし算とかけ算が混合した整数と小数の計算をすること。
- ◆任意単位による測定について理解すること。
- ◆正五角形は五つの合同な二等辺三角形でできていることなど、図形についての知識を理解し、作図することが出来ること。
- ◆資料から、二次元表の合計欄に入る数を求めることができること。

算数B問題

- ◆料金の差を求めるために、示された資料から必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できること。
- ◆直線の数とその間の数の関係に着目して、示された方法を問題場面に適用することができること。
- ◆仮の平均を用いた考えを解釈し、示された数値を基準とした場合の平均の求め方を記述できること。
- ◆示された式の中の数の意味を、表と関連付けながら正しく解釈し、それを記述できること。



改善の方向

- たし算やかけ算の混合した計算でその式の意味について話し合い、説明する活動を充実させる。
- 基礎的な計算力をつけるため家庭学習（宿題）の推奨の継続や授業での反復練習の機会を増やす。
- 見取り図や展開図の表現に慣れ親しむ活動を大切にする。
- 作図をする活動等、分度器や定規などの使い方に慣れ親しむ活動を大切にする。
- 算数的な活動を行い、自分の考えを説明したり、記述したりする機会を多くもつ。
- 数量の関係を数直線や図に示して、比較量の大きさを見積もり、計算に生かすことができるようにする。
- 数量の関係をグラフに表し説明する機会を増やすなどグラフに表すことの利点を実感し、普段からこのような表現方法に慣れ親しむようにする。
- 測定の値や必要な情報を的確に読み取り、式の意味や手順を明確にしながらか解の見通しを立てる場面を多くもつ。

算数の考察

- ・基礎・基本の学力について課題とされる部分があり、普通の授業での計算問題の反復練習の充実や家庭学習や宿題など、学習機会を増やしていくことが望ましいと考えます。
- ・A・B問題ともに終盤での無回答率が高い傾向が見られることから、問題を解く時間が足りなかったことが推測されます。アンケート結果からも時間が必要だったという回答が比較的多くみられます。授業の中で、復習の計算問題等多く取り入れるなどしながら、問題に慣れていくことも時間内に解くことができるためには必要と考えます。

本校の子どもたちは学習することへの意欲はもっていますが、予習を行う意識が復習をする意識と比べ少ないので、予習にかける時間を増やすことが必要と考えます。また、見直しをする時間を授業や家庭での学習の中に取り入れ、基礎・基本の学力を定着させていくことも大切だと考えます。

自己肯定感が低く、自分に自信がない傾向が見受けられます。また、自分の考えを発表することに苦手意識をもつ子が比較的多い傾向にあることがうかがえます。話し合い活動を通し、お互いの考えを認め合う体験を積むことで自信をもたせる必要がある。

本校ではテレビを見たり、ゲームやインターネット、スマートフォンをしたりする時間が多い児童もいることから、生活習慣の見直しをする必要性も考えられます。